

「線状降水帯」発生情報の運用が開始されました!

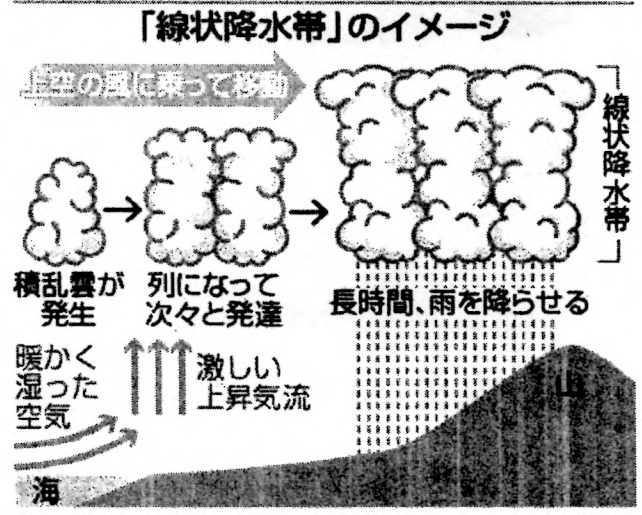
◎令和3年6月17日から、短時間で集中的な豪雨をもたらす「線状降水帯」発生情報の運用が始まりました。「線状降水帯」によって非常に激しい雨が降り続いていて、河川氾濫などの危険度が急激に高まっていることを伝えます。

「線状降水帯」とは?

◎暖かく湿った空気が流れ込んで発達した積乱雲が上空の風に流されながら線状に連なって、数時間にわたって同じ場所に豪雨をもたらします。

【過去の災害事例】 ※下記の災害は台風などの影響も含む

- 平成26年8月豪雨
- 平成27年9月関東・東北豪雨
- 平成29年7月九州北部豪雨
- 平成30年7月豪雨
- 令和2年7月豪雨



発表の基準は?

- ① 3時間雨量100ミリ以上の面積が500平方キロメートル
- ② 雨域が線状
- ③ 最大3時間雨量が150ミリ以上
- ④ 災害の危険度を地図に示す「危険度分布」で一定基準を超過

「線状降水帯の情報」発表基準



発表されたら?

◎この情報が発表される時には、降り続いた非常に激しい雨により、河川氾濫などの危険が迫っている可能性が高いため、すでに屋外への避難が難しい状況となっている場合も考えられます。避難所までの移動が危険な場合は、近所の高い建物や自宅の上階などのより安全な場所に避難するなど、適切な避難行動をとりましょう。

【問合せ】
東住吉区役所 区民企画課（防災担当）
☎ 06-4399-9909



【顕著な大雨に関する情報の例】
〇〇地方、××地方では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続いています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっています。